

第1章 山寺（川原町・南院・馬形地区）の景観

1 山寺地区の概要

山寺地区は、山形市北東部に位置し、蔵王国定公園の豊かな自然と、宝珠山立石寺を中心とする観光地「山寺」の歴史・文化性により、それらの織り成す美しい景観を有する地区です。

山寺は、貞観2年（西暦860年）に、当時の清和天皇の勅命で慈覚大師が開山したのが始まりとされ、東北有数の霊場として、また、松尾芭蕉が『閑さや岩にしみ入る蝉の声』の名句を残した地としても有名です。また、明治41年（西暦1908年）には、当時の皇太子殿下（後の大正天皇）の行啓を仰ぎ、これを契機に観光地山寺としての歩みが始まりました。

現在では、山形市を代表する観光地の一つに数えられ、鬱蒼とした杉木立と奇岩怪石に囲まれた千幾段の石段や、五大堂から眼下に望む自然に包まれた古き良き日本の集落景、宝珠山立石寺をはじめとする多くの歴史・文化資産など、多彩な観光資源により、毎年多くの観光客が訪れています。



2 景観の現状と課題

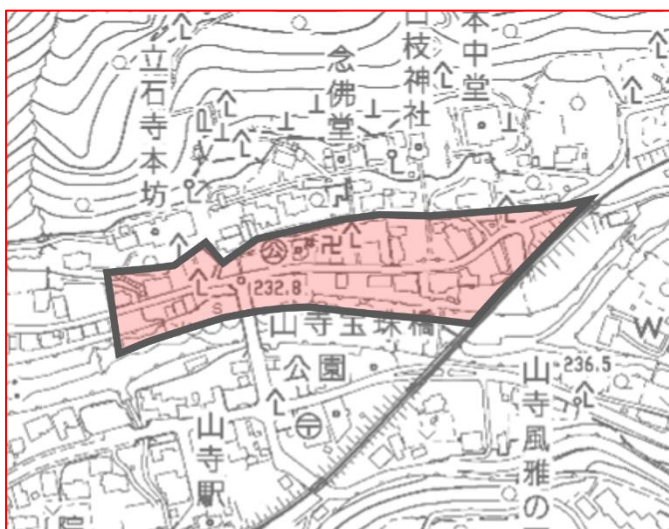
宝珠橋から登山口に至る門前通り沿いの商業地エリア

現状

- ・宝珠橋と山寺登山口との間にあって、ほとんどの参詣者が通る賑わいのあるエリアです。緩やかな上り坂となって、4 m程（かつて2間）の道路沿道には、飲食店や土産物店が並んでいます。
- ・建物の多くは直接道路に面しています。3階建ての中層建物もある一方で、駐車場を併設した店舗が多いのが現状です。屋外広告物（店舗の看板、駐車場のサイン、のぼりなど）も多くなっています。
- ・街の背後には山、川が迫っており、建物脇から背後の緑や寺社、川などが垣間見える風景がうるおいを与えています。
- ・沿道の石段や鳥居、高木なども街を特徴づける景観要素です。

課題

- ・建物は和風を意識してデザインされてきましたが、その方向性はまちまちで、連続性を欠き、街としてのアイデンティティを明確にできていない点に課題があります。
- ・商業店舗として黒色の屋根や木造の魅力を引き出すことに成功している事例を、一つのモデルとしてデザイン誘導を図るなど積極的な景観形成が望まれます。
- ・魅力的な屋外空間を形成し、来訪者の様々なアクティビティを生み出すことは今後のまちづくりの一つの課題です。
- ・過度な壁面看板が建築物の魅力を損ねたり、多くののぼりやサイン類がまちなみの連続性を損ねたり、背後の風景や特徴的な景観要素を隠すなどしている点は改善すべき点です。
- ・道路沿いの電柱と空中線が景観を阻害していることから、無電柱化により山寺の門前町に相応しい景観を形成・保全する必要があります。



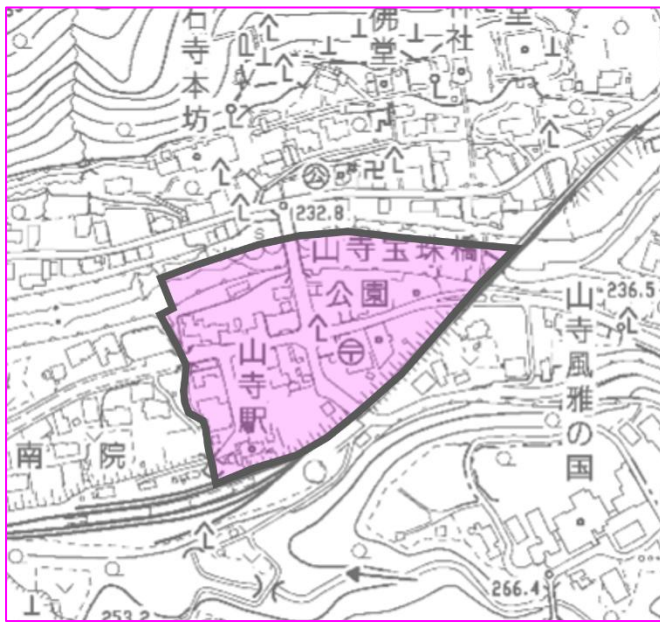
駅から宝珠橋へ至る主要な参詣ルート沿道のエリア

現状

- ・ JR山寺駅から宝珠橋に至る参詣ルートとなっています。飲食店、土産物店のほか、駐車場も多くなっています。
- ・ 登録有形文化財である山寺ホテルが駅前にあり、ランドマークとなっています。JR山寺駅舎もこれに呼応したデザインとなっており、駅前の景観軸をつくっています。
- ・ 駅からは、山寺の全山を一望することができます。

課題

- ・ 駅前に中小規模の駐車場が多くなっていること、幹線道路が整備途中であることなど、土地の有効活用とまちなみの再形成は今後の課題です。
- ・ 通りごとに、連続性とまとまりのある景観をつくるよう、近隣や通り景観を意識した建築デザインが求められます。
- ・ 屋外広告物もこの景観に収まるよう、大きさや色彩などに配慮する必要があります。



下山口以西の参詣ルートにあたる住宅地エリア

現 状

- ・住宅が主体のエリアですが、飲食店の立地も見られます。近年駐車場が増える傾向にあります。
- ・道幅は4 m程と狭いのですが、参詣者の通行があります。
- ・駐車場の設置に伴って、駐車場看板や自動販売機の設置が見られます。

課 題

- ・生活空間としての環境を維持しつつ、参詣者の歩行者目線での景観形成が求められます。
- ・勾配屋根をもった連続性のある和風住宅地景観の形成が課題です。
- ・駐車場サインの統一、駐車場際の緑化、自動販売機の色彩抑制などが課題です。



門前通りと寺域に挟まれた住宅地エリア

現状

- ・門前町の背後、寺域との間に形成された住宅地で市中の山居の呈をなしています。
- ・周囲の高木や個々の庭木によって緑豊かな環境がつけられています。また、石垣や石段など、歴史を感じさせる工作物がうるおいを与えています。

課題

- ・駅などの眺望点から一望されるため、その風景に溶け込むようにすることが求められます。これまでどおり緑を維持したり、建物の高さや屋根壁面の色彩に配慮することが望まれます。
- ・景観要素を維持し、看板など目立つものは設けず、山居の風情の維持が求められます。



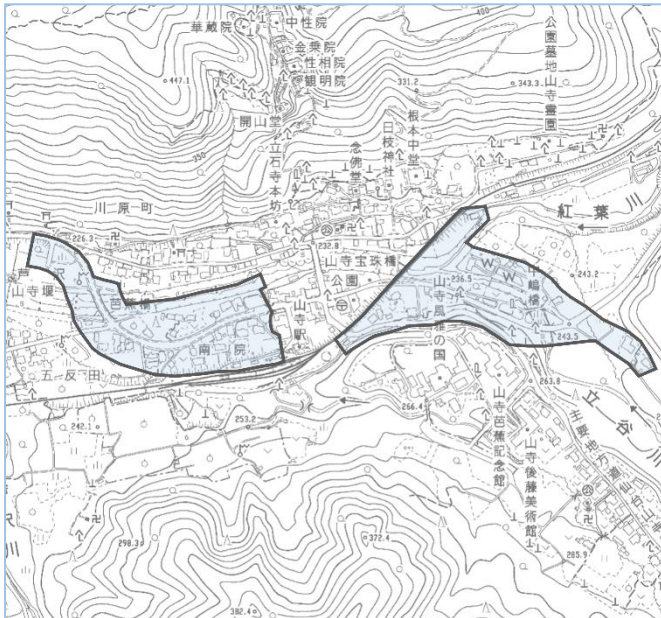
県道沿いの住宅地エリア

現 状

- ・近年、県道が拡幅整備され、沿道には新しい住宅や駐車場が目立っています。
- ・住宅壁面の色彩は、ベージュ系や暗色系のものが多く、背後の山の緑も見えることから、比較的落ち着いた住宅地景観をつくっています。

課 題

- ・幹線道路沿道の駐車場などを緑化し、沿道景観を質的に高めていくのはこれからの課題です。あわせて、沿道の看板類を抑制する必要もあります。



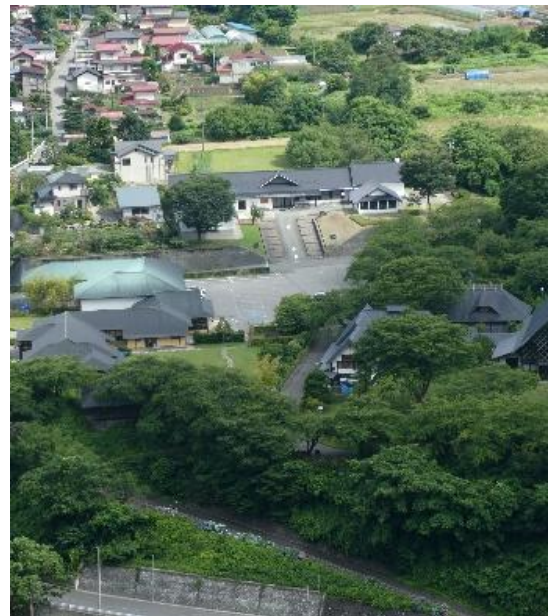
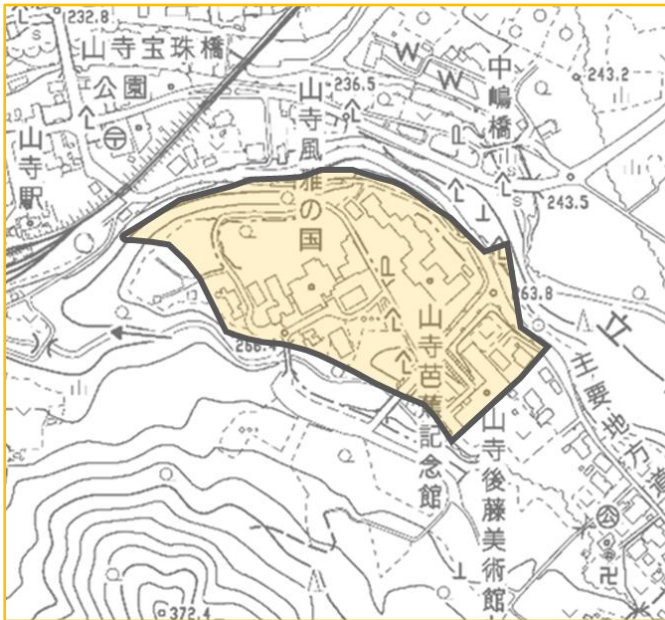
大規模な施設が集まるエリア

現 状

- ・山寺芭蕉記念館、山寺風雅の国（閉館）、山寺後藤美術館といったそれぞれに特徴あるデザインが施された大規模な施設が集まっています。
- ・山寺と川を挟んで向き合う段丘上に位置し、眺望が開ける場所です。
- ・エリア全体が緑に囲まれ、それぞれの施設に和風の趣があり、良い景観をつくっています。

課 題

- ・今後とも、この雰囲気と特徴的な景観が保たれるよう、それぞれの施設がそれぞれのデザインコード（設計意図・方針）に則って維持されることが望まれます。
- ・地区内外の豊かな緑を維持すること、看板類もこの地区に合ったものとするなどが求められます。



自然に囲まれた街道沿いの集落エリア

現状

- ・山裾に広がる農地に囲まれ、線状に連なる集落のまとまりある姿が美しい集落です。このように集落の美しい姿の背景には個々の建築物の形態・色彩と土地条件に従った集落形態が大きく影響しています。
- ・まちなみを歩くと、湾曲した道路に沿って、木造の建築物、生垣や植え込みが歴史的風情を残すとともに、緑豊かな景観をつくっています。

課題

- ・まちなみ景観に対しては、調和のとれた落ち着いたまちなみの形成のため、建築物の高さ、屋根の形態・色彩、壁面の色彩に注意が払われることが望めます。
- ・二口街道筋の建築物については引き続き高さを抑えとともに道路に対してゆとりある建築物の配置、庭・生垣の維持や積極的な緑化が求められます。
- ・集落のまとまりや歴史的佇まいを感じられる、まちなみ景観を将来的にも保全されることが望めます。

